

## 「解答・解答例等」「出題の意図」

<p>選抜区分</p>	<p>2026年度 (選抜区分：編入試験) 文学部人間関係学科 (科目名：小論文)</p>
<p>出題の意図 (評価のポイント)</p>	<p>問1</p> <p>この設問は、与えられた資料(図1)に示されたデータを正確に読み取り、その内容を適切に要約する能力を評価するために出題した。資料には、2017年までの離婚件数および普通離婚率の推移が示されている。まず、受験者はこれら二つのデータに注目し、それぞれの時系列変化の一般的な傾向を把握したうえで、それを要約することが求められる。さらに、各データの特徴を踏まえ、特定の年代における離婚件数や普通離婚率の増減を具体的に示すことで、データの動向をより明確に記述することができる。データをもとに記述する際には、単なる増減の指摘にとどまらず、度数や割合などの具体的な数値を用いた客観的な記述を心がける必要がある。</p> <p>問2</p> <p>この設問は、問1と同様に、与えられた資料(表1)に示されたデータを正確に読み取り、その内容を適切に要約する能力を評価するために出題した。ただし、問2では、父子世帯と母子世帯における養育費受け取り状況の経年変化の特徴を述べるだけでなく、その特徴をより明確に示すために、両者のデータを比較することが有効である。与えられたデータについて、比較考察の視点から二つの表に示された内容の特徴を説明する力</p>

を測定することも、より明示的に内容を説明するうえで有効である。

### 問3

この設問は、受験者が自身の意見を客観的かつ論理的に文章で表現できるかを評価するために出題した。設問では、「養育費の不払いまたは不足がなぜ問題となるか」という問いに対し、「子どもの利益」または「子どもの権利」という視点から論じることが求められている。ここで問われているのは、受験者の自由な意見そのものと、それを与えられた条件のもとで論理的に展開する能力である。まず、受験者は自らの意見を明確に定め、その論理的妥当性を自ら検討する必要がある。次に、その意見が「子どもの利益」または「子どもの権利」という視点からどのように裏づけられるか、その根拠を示しながら論じることが求められる。すなわち、養育費に関する自身の考えを自由に展開しつつも、その議論が常に上記の二つの条件に即しており、かつ「自らの主張がなぜ『子どもの利益』あるいは『子どもの権利』に基づくのか」を明確に説明することが期待されている。

## 「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026年度（選抜区分：編入試験） 文学部人間関係学科（科目名：面接）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>面接の意図</p> <p>本学科を志望するうえでの必然的かつ決定的な理由、入学後の学業・学生生活への具体的な目標、卒業後のキャリアに対する明確な方針を判断することを目的とする。</p> <p>評価のポイント</p> <p>面接者の質問に対し論理的かつ客観的に回答できること。同時に、具体的な内容に基づいた説得力のある内容を含んでいること。学科の教育活動に積極的な人材であること。</p>